

県測量設計コン
サルタンツ協会

吉川会長

学びと共有呼び掛ける

今年度1回目の技術講習会



▲吉川会長があいさつ

(一社)長崎県測量設計コンサルタンツ協会が6日、今年度1回目となる定期技術講習会を大村市のシーハット大村さくらホールで開催した。長崎県や国土地理院などが講師に立ち、午前・午後を通して5講演を実施。受講

した会員22社・約190人はそれぞれの動向・取り組み・技術への関心を高め、会員相互で情報共有を図った。開会あいさつに立った吉川國夫会長はまず、これからの長崎県をはじめ全国における取り組み・技術指針を持つ方々が登壇する」と述べ、5つの講演内容を紹介した。その上で、「より一層学び、その学びで得たものを仲間と共有しては



▲国土地理院の齋田氏が講演

しい。そのためにも今後は、会員の中で頑張る社員や取り組み等も講習会を通して紹介していきたい」と話し、実り多い講習会実施への熱意を示した。

午前の部に登壇した国土地理院九州地方測量部の齋田宏明専門職は、第53次日本南緯地域観測隊(2011年11月～12年2月)の活動を講演。同院では第1次観測隊(1956年)以来、毎年に職員を派遣し南緯大陸における科学的・基礎的情報整備に貢献している。その中で齋田氏は、

約二十数年ぶりと
なるセール・ロン
ダーネ山地調査隊
に参加。氷点下15
度という過酷な環
境の中、5人の少
数精鋭で現地にテ
ントを張り、10
1日間にわたって
地形・地質調査お
よび精密測地網測量
などを行った。同山地は
氷床変動の影響を受け
た独特の地形を持つこ
とから齋田氏は、「調
査することで海面上昇
に与える影響が分かっ
てくる」と語り、調査
業務やキャンプ生活、
山々と氷だけが広がる
雄大な自然を映像とと
もに紹介した。

一方、県企画部政策

企画課の小島陽平係長は、県が推進する新しい長崎県づくりのビジョン『未来大国』について説明した。取り組みに対する県民一人一人の理解を求めた上で、「将来への不安や憂いを払拭し本県への誇りや未来への期待感を持ち、さまざまな立場の皆さまが思いを一つにして連携しながら取り組みを進めていきたい」と述べた。

午後の部では、E-
tcs コンサルタン
ト(株)の檀誠営業本部長
事が『中島川の川づく
り』と県内魚道維持管
理を講じたほか、(一
社)セメント協会の河
本年史PRリーダーが

セメント系固化材の基礎知識と適用事例を講演。さらに、(株)Full Depthの吉賀智司代表取締役が、水深1000mを超える深海探査・港湾の防波堤壁面点検用水中ドローンを紹介するなど、受講者にとって有益な情報が数多く盛り込まれた講習会となった。



技術講習会の様子